

プロフィール

入国管理局勤務中の経験から国際協力に関する仕事に就きたいと考えるようになり、退職して大学院へ進んだ後、NGO 勤務を経て本事業に参加しました。海外研修では IOM 南スーダン事務所の出入国および国境管理プロジェクトへ派遣されました。現在も同事務所において勤務を続けています。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

本事業については知ったのは NGO の現地派遣員として滞在していた東ティモールでお会いした、上杉先生からでした。東ティモールでの経験から紛争後の国造りへの参画や国内避難民支援に強く興味をもつようになっており、特に国内避難民の帰還先への再統合や退役兵士の社会復帰に関するプロジェクトに携わりたいと考えていました。しかしながら、東ティモール以外の勤務経験はインドネシアでの青少年活動/職業訓練プロジェクトや日本での入国管理局勤務、大学院での専攻は Migration Studies と、特に平和構築や紛争解決とは関連しておらず経験も知識も不十分なものであったため、その分野の第一人者である方々による講義を受けられる本事業の国内研修は非常に貴重な機会であると思いました。また当時は契約終了後の進路について考えているところで、大学院に進学した頃から将来的には国際機関で、特に IOM（国際移住機関）で国内避難民支援に携わりたいと考えていたものの、その分野での経験の少なさから応募しては書類選考で不合格の繰り返しでした。年齢的なものもあって少しでも早く働き始めたいという焦りに反して仕事を得るのは容易ではなく、このままでいいのだろうかと悩んでいるところでした。そのため国連ボランティアとして1年間国際機関に派遣されるという海外実務研修は国際機関へのエントリー・ポイントとしてまた平和構築分野におけるフィールド経験として非常に魅力的でした。以上が私が平和構築人材育成事業に応募した理由です。

2. 国内研修の感想は？

平和構築分野の第一人者の方々からお話を伺える、非常に貴重な時間でした。講義の内容もただ座って聞いているだけではなく、グループに分かれてのワークショップや実際の支援の現場を想定したコーディネーション・ミーティングなど現場での仕事を意識した実践的で具体的なものであったと思います。また応募時には気づきませんでした。合宿形式の研修であることから平和構築分野でのキャリア構築という同じ目標を持つ研修員同士の交流を深められるという点も大きいと思いました。残念ながら私自身は環境にうまくなじむことが出来ず、せっかくの機会を十分に活かせなかったため後悔が残っています。

3. 海外実務研修での活動について教えてください。

IOM 南スーダン事務所に出入国・国境管理オフィサーとして派遣されました。私が所属しているのは Immigration and Border Management (IBM) という部門で、入国管理局の能力強化を目

指すプロジェクトを実施しており、入管職員を対象とした様々な研修や国境事務所や空港への設備や機材の導入を通じて、南スーダン人入管職員自身による適切な出入国管理の実現を目指しています。



【入管職員を対象とした研修】

国境事務所の多くが基本的な設備や器材もなく入管事務所としての体裁が整っていない状態で、職員のほとんどが出入国管理に関する知識も経験もなく研修を受けたこともない状況ですので、機材の導入や研修もなかなか思う通りには進みません。現在までに旅行者の情報収集や同一人性の確認ができる PIRS とよばれるシステムや偽変造文書鑑定機器が導入されたのは 29 ある国境の入管事務所のうちの 3 ヶ所とジュバ空港のみで、その他の事務所については手付かずの状況です。またこれまでに出入国管理全般、人身売買や密入国、違反調査方法、偽変造文書鑑定方法、鑑定機材の使用法、PIRS 利用者および管理者研修、コンピューター一般、研修指導員育成研修等、多岐にわたる研修を実施してきましたが、多くの入管職員がまだ 1 度も研修を受けていない状況です。

今後は日本政府の支援によってスーダンとの国境を除く 16 ヶ所の国境において事務所建物の建設、PIRS、ソーラーパネルシステム、および偽変造文書鑑定機材の導入、入管職員の研修施設の建設、南スーダン向け入管職員用研修資料の作成を含むプロジェクトが実施される予定です。すでに機材の導入を終えた事務所では、研修を受けた入管職員によって偽造旅券案件や成りすまし案件（他人名義の旅券を使用して旅券名義人に成りすまして出入国しようとするもの）が摘発されるなど、成果が出てきていますので、このプロジェクトによって入国管理局のさらなる能力強化が期待されています。

（注：PIRS は Personal Identification and Registration System の略で、コンピューター、旅券読取機、ウェブカメラ、指紋読取機からなります。）



【聞き取り調査】



【国境にて移民局職員と】

4. 海外実務研修の感想は？一番印象に残っていることは

12ヶ月の研修期間のうち、5ヶ月間は1人きりでうち3ヶ月はプロジェクトもなかったことです。上司は出張という形でハルツームのIOMスーダンからジュバ事務所に来ており、私の着任後約1ヶ月でハルツームに戻ってしまったためです。（当時は南スーダンの独立前で、まだIOM南スーダンではなくIOMスーダン、ジュバ事務所でした。）上司のいた期間も半分以上は国境事務所への機材導入の立会いでフィールドに出ていたため十分な引継ぎを受ける時間がなく、プロジェクトの全貌もプロジェクトを進めていく上でのIOM内部の手続き等もまだわからない状況で1人でプロジェクトを担当するのは本当に不安でした。

プロジェクトが終了してからは担当業務といえるものがなく、指示を仰ぐべき上司もおらず、自分が何をすればいいのか、何を期待されているのかが分からない状況でした。幸い数ヶ月のうちに新しいプロジェクトが始まることは決まっていたので、プロジェクトを問題なく開始できるよう入管事務所を訪問して今後の計画について話し合ったり、これまでに他国で実施された同様のIBMプロジェクトのプロポーザルや報告書、その他IBMに関する資料を読んだり、入管職員へのインタビューや観察に基づいて出入国手続きやビザ発給手続きなど入国管理局の現状についてのレポートを作成したり、といったことを行いました。新しいプロジェクト・マネージャが着任するまでの間、これまでに築いてきた入国管理局との関係を維持することができましたし、着任の際にはこれまでのプロジェクトや南スーダンの入国管理業務の現状について説明を行うことができました。



【IOM オフィス】

専門的な助言を求められる人が身近にいなかったのは残念ですが、すべてを自分でやらざるをえない状況にあったのは非常に勉強になりましたし、結果としてよい経験になったと思っています。

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

同じポストへの採用が決定したので、引き続き 10M 南スーダンで IBM 関連プロジェクトに携わっていく予定です。国際協力分野で仕事をしたいと考え始めた頃には入国管理局での勤務経験やそこで得た知識を活かせる分野があるとは考えていませんでした。海外研修の派遣先候補として 10M 南スーダンの IBM プロジェクトがあり、またそこで引き続き勤務できることになったのは本当に幸運であったと思っています。しかしこれまでの勤務を通じて自分はまだまだプロフェッショナルではないということを痛感しましたので、専門性の強化が今後のキャリア・プランの課題であると考えています。

6. 平和構築人材育成事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

日本での入国管理局勤務経験は国際協力の場では役に立たないだろうと思込んでいましたが、海外実務研修の派遣先候補に入管関連のプロジェクトがあり、幸運にも研修後も同じポストで勤務することが決まりました。本事業に参加したことでこうした可能性に気付くことが出来たので、平和構築分野に興味はあるけれど自分には経験がないから知識がないから、と応募を躊躇されている方には、思い切って応募されることをお勧めします。